

## 平成25年12月11日（水） 活動報告

気温：朝6℃ 天気：晴れ 報告者：桑田直弥

### <活動内容>

- 11:30 配食サービスの手伝いで各利用者宅を訪問
- 13:00 サポートセンターにてお風呂体験利用開始
- 14:00 サポートセンターにてたこやきパーティーを開始
- 16:00 企画後のセンター内の片付け
- 17:00 サポートセンター内の掃除
- 18:00 サポートセンター向けの訪問記録作成
- 19:00 サポートセンターに来所した住民との対話
- 20:00 退勤

### ○配食サービスの手伝いで各利用者宅を訪問（11:30～）

…養護老人ホームの厨房と協力して、配食サービスの手伝いを行う。仮設団地だけではなく、仮設の外に住む在宅の方もいる。ほとんどの利用者は独居の高齢者である。1食500円で、きちんと管理栄養士が栄養等を調節した献立は味もボリュームも利用者に好評である。

#### (感想)

…五葉寮の養護老人ホームの厨房で調理され、厨房にて人数分を回収後、各利用者宅へ配送する。独居の方は耳が遠い方も多く、呼びベルだけでなく直接中まで訪問してから伝達する方も多く見られた。食事食べる楽しみの一つという事で笑顔で迎えられる方が多かった。



図1：各利用者宅を訪問



図2：直接訪問して手渡す



図 3 : 受け渡しする領収書と保温ボックス

### ○サポートセンターでのお風呂体験とたこやきパーティー（13：00～）

…各仮設団地の住民にチラシや訪問時への告知を続けてきたおかげで、計 30 名以上が各仮設団地から集まる、にぎわいのあるイベントとなった。13 時 30 分より開始予定だったお風呂体験は、希望者が 13 時前よりセンターに来られたため、前倒しで開始する事となった。遠方の仮設団地には車での送迎付きである。

#### （感想）

…とにかく、12 月 1 日より派遣で来た中で最も多くの住民の方々に来ていただいた事は大変光栄である。たとえ、「たこ焼き」というタダ飯が目的だとしても嬉しい事である。おかげで計 200 個で予定していた総数を、計 300 個以上のたこ焼きを作る事となった。また、単純にゲスト扱いで食べる役割の人だけでなく、調理も手伝っていただいた。「たこやきって、作るのも楽しいわね」「一人でたこやきを丸くする事ができた」など、住民同士が語りながらグループ活動を行う事ができた。その他にも、元の住居から仮設団地でじ散り散りになっていた人たちがこのイベントで久しぶりに再会ができた、気分が乗ってきた男性が今の状況を即興で地元の民謡に乗せながら替え歌を歌うなど、たこやきやお風呂以上の活性化が見られた。お風呂を利用者された方は 3 名と非常に少なかったが、仮設住宅内にある狭き風呂では「足が伸ばせない」「ゆっくりと肩までつかれない」などの不満があったため、お風呂利用によって広々とした浴室とゆずの匂いが立ち込める風呂場を存分に楽しんで頂いた。



図4：子どもからお年寄りまで30名超



図5：材料等の準備は前もって



図6：住民の方も積極的に手伝われる



図7：大阪風たこやきは大好評であった



図8：アンケートにも前向きな意見が多い

○サポートセンターに来所した住民との対話（19：00～）

…毎日センターへ訪問され、血圧測定で自分の体調管理を確認。その後、自分の身の回りで最近あった出来事や東日本大震災で亡くなった夫との思い出などを話される。毎日来られているが、お話が途切れる事なく、サポートセンターの業務が終了するギリギリの時間である約1時間程じっくりと話されると、気持ちも落ち着かれて、自分の仮設住宅に戻って行かれる。

（感想）

…お茶っこクラブやイベント時など、他の住民がいるところでもお話は好きな方であるが、やはり集団の中での話と、1対1での話の内容は異なる。1対1の時には、亡くなった夫の畑での仕事ぶりや宙ぶらり状態の土地の所有権、夫が行っていた地元の青年団のお世話の在り方など、夫への思いから復興の進まない鶴住居地区の現状への不満まで、非常に感情的である。しかし、毎日、お話を続けていく事で「いわゆるお医者さんにお金払っているようなカウンセリングではないんだろうけど、あんたと毎日話していると『ケア』になっている気がするよ。落ち着くし、癒しになっている。」と感想を言っていた。短期間であっても住民の方と継続的な関わりを行う意義を感じて、感動を覚えた。

以上